



東京新新聞

十五拾五號



怪しき戸外に出ると思はるる妻の氣絶つ驚天匠と
呼ばるる葉とと人抱きと我と取りてありと語り
夫より邪見の角折きて優しき者とりりしとを

おのれと聞かぬ女は心も消へた声
とけひしき胸絶つて倒れし良久佐次郎

女貞悟せし引ひ連

調一声叱つて曰く不孝の

よしと思儀や黒雲舞下り大

ふとこころをそそぎて居

一或時脊戸を

寺園あり

の医療も驗

あり愛あやと種

枕に伏業の凝りあり

之に苦病も重

る色心奪て去

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

の事とせし柳平

七
町人形具足屋

一葉齋芳後



渡辺彫栄

